

エコアクション21 環境経営レポート

対象期間: 2021年9月1日～2022年8月31日



発行日：2022年 11月 30日

株式会社セイブ

目 次

	PAGE
① 組織概要 -----	1
② 対象範囲と期間 -----	5
③ エコアクション21組織図 -----	6
④ 環境経営方針 -----	7
⑤ 環境経営目標 -----	8
⑥ 環境経営計画 -----	9
⑦ 環境経営目標の実績 -----	10
⑧ 環境経営計画の取組結果とその評価、 -----	12
次年度の取組内容	
⑨ 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の -----	16
結果並びに違反、訴訟等の有無	
⑩ 代表者による全体評価と見直し -----	17

1. 組織概要

～組織概要に関する情報～

1) 事業所名及び代表者名

株式会社 セイブ 代表取締役 安田 天峯

2) 所在地

- ☐ 本社: 愛知県名古屋市中川区万場3丁目1314番地
- ☐ 大高: 愛知県名古屋市長区大高町西丸根179番地
- ☐ 飛島リサイクルセンター: 愛知県海部郡飛島村大宝4丁目148-1

3) 事業内容

- ☐ 特定・一般建設業
- ☐ 一般労働者派遣事業
- ☐ 産業廃棄物収集運搬業
- ☐ 特別管理産業廃棄物収集運搬業
- ☐ 産業廃棄物中間処分業

4) 事業の規模

- ☐ 会社設立 1989年9月29日
- ☐ 資本金 20,000,000円 (2017年11月25日増資)
- ☐ 延床面積 2,920.34㎡

	単位	2019年度 (2019年9月～ 2020年8月)	2020年度 (2020年9月～ 2021年8月)	2021年度 (2021年9月～ 2022年8月)	
売上高	億円	9.1	8.9	9.5	
従業員	人	51(※1)	61(※2)	62(※3)	
産業廃棄物 収集運搬量	t	2,989	2,421	1,992	
特別管理産業廃棄物 収集運搬量	t	0	0	0	
中間処理量	t	1,357	1,455	1,038	※4
処理後・再中間処理他	t	816	1,126	798	
処理後・再資源化	t	541	328	239	

※1 : 2020年8月20日現在

※4 2023年1月23日改訂

※2 : 2021年8月20日現在

※3 : 2022年8月20日現在

5) 建設業における事業実績

工事業種	件数	金額(千円)
解体工事業	450	604,474
とび・土工・コンクリート工事業	32	32,114
内装仕上工事業	104	56,723
鋼構造物工事業	0	0
塗装工事業	0	0
合計	586	693,311

6) 環境管理責任者および、担当者連絡先

環境管理責任者: 三本星子 TEL 052-432-2322
FAX 052-432-1013
E-mail anzen@seibu-kk.co.jp

担当者 (本社)
大矢須磨

担当者 (大高) 三本星子

担当者 (飛島リサイクルセンター)
足田美帆

～許可の内容～

1) 許可一覧

都道府県	許可区分	許可番号	許可年月日	有効期限
愛知県	特定建設業(※1)	愛知県知事(特-29)第100537号	2017年12月27日	2022年12月26日
	一般建設業(機械器具設置工事業)	愛知県知事(般-30)第100537号	2018年11月14日	2023年11月13日
愛知県	一般労働者派遣事業	愛知県知事般23-300077	2022年6月1日	2027年5月31日
愛知県	㊦ 産業廃棄物収集運搬業	第02310050991号	2018年2月20日	2024年12月15日
岐阜県	㊦ 産業廃棄物収集運搬業	第02100050991号	2017年11月1日	2024年10月22日
三重県	㊦ 産業廃棄物収集運搬業	第02400050991号	2017年10月26日	2024年10月10日
静岡県	㊦ 産業廃棄物収集運搬業	第02201050991号	2020年5月31日	2027年5月30日
愛知県	㊦特別管理産業廃棄物収集運搬業	第02350050991号	2019年9月18日	2026年9月17日
愛知県	㊦ 産業廃棄物処分業	第02320050991号	2018年2月20日	2025年1月9日
愛知県	廃棄物再生業(金属くずの再生)	第2317002号	2017年3月24日	—

※1: 土木工事業・建築工事業・大工工事業・左官工事業・とび土工事業・石工事業・屋根工事業・

タイル・れんが・ブロック工事業、鋼構造物工事業、鉄筋工事業、舗装工事業、しゅんせつ工事業、板金工事業・

ガラス工事業・塗装工事業・防水工事業・内装仕上工事業・熱絶縁工事業・建具工事業・水道施設工事業・解体工事業

2) 許可の範囲

都道府県		種類	燃え殻	汚泥	廃油	廃酸	廃アルカリ	廃プラスチック類	紙くず	木くず	繊維くず	動物性残さ	ゴムくず	金属くず	くず及び陶磁器くず・コンクリート	鋳さい	がれき類	ダスト類	ばいじん	品目数	
収集運搬業	積保除く	愛知県	○*2	○*2	○	○*2	○*2	○*3*4	○	○	○	○	○	○*3	○*3*4*6	○*2	○*4	○*2		16	
		岐阜県	○*2*4	○*2*4	○*2			○*2*4	○*2*4	○*2*4	○*2*4	○*2	○*2*4	○*2*4	○*2*4*6		○*2*4		○*2	13	
		三重県	○*2	○*2	○			○*4	○	○	○	○	○	○	○*4*6		○*4		○*2	13	
		静岡県		○	○			○*5	○	○	○			○	○*5		○*5			9	
	積保含む	愛知県		○*2	○			○*3*4						○*3	○*3*4		○*4			6	
		岐阜県	該当なし																		0
		三重県	該当なし																		0
		静岡県	該当なし																		0
	特管	愛知県	引火性廃油 特定有害廃油	腐食性廃酸 特定有害汚泥	腐食性廃アルカリ 特定有害廃酸	感天性産業廃棄物 特定有害廃アルカリ	特定有害廃石綿等	※ 詳細については特別管理産業廃棄物収集運搬業許可証を参照										40			
		愛知県												○*3	○*3*5*6		○*5			7	

水色 水銀使用製品産業廃棄物含む

- *2 水銀含有ばいじん等を除く
- *3 自動車等破砕物を除く
- *4 石綿含有廃棄物を含む
- *5 石綿含有廃棄物を除く
- *6 工作物の新築、改築又は除去に伴って生じたものを除く

～車両・施設の状況～

1) 運搬車両

	車体形状	積載量	台数
1	ダンプ	1,900kg	1
2	ダンプ	2,000kg	4
3	フックロール	3,800～3,850kg	4
4	フックロール	11,500～11,700kg	3
5	キャブオーバー	350kg	1
6	キャブオーバー	1,150kg	4
7	キャブオーバー	2,250～2,650kg	2
8	キャブオーバー	5,600kg	2
9	キャブオーバー	8,300kg～9,400kg	2
合計			23

2) ・飛島リサイクルセンター施設保有 車両

	車体形状	積載量	台数
1	フォークリフト	1,500kg	2
2	フォークリフト	2,500kg	1
3	ホイールローダー	-	1
4	油圧ショベル	0.45m ³	2
5	油圧ショベル	0.7m ³	1

・本社保有 車両(各解体現場)

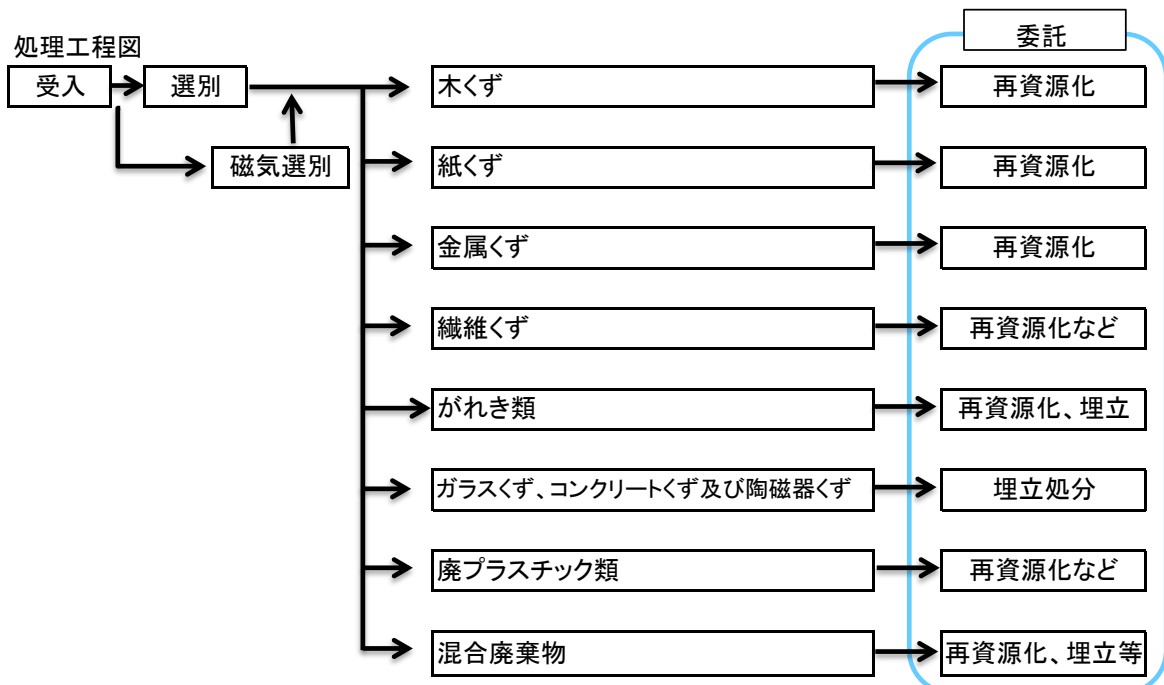
	車体形状	積載量	台数
1	フォークリフト	1,500kg	1
2	油圧ショベル	0.1m ³	1

3) 営業車両等

	車体形状	積載量	台数
1	乗用車(軽～ワゴン)	-	43

4) 飛島リサイクルセンター施設の概要

処理施設の種類	廃棄物の種類	処理能力
中間処分(選別)	廃プラスチック類、紙くず、木くず、繊維くず、金属くず、ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず、がれき類 以上7品目(水銀使用製品産業廃棄物を除く。)	54.4m ³ /日 (6.8m ³ /時間)
積替え・保管	汚泥(水銀含有ばいじん等を除く。)、廃油、廃プラスチック類(※1)、金属くず、ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず(※1)、がれき類(※1) 以上6品目(水銀使用製品産業廃棄物を除く) ※1: 石綿含有産業廃棄物を含む	保管面積: 22.24m ² 保管上限: 28.92m ³



2. 対象範囲と期間

1) 対象範囲

全組織、全活動

対象範囲	敷地面積(m2)	活動	従業員数(人)
本社	2,282.97	全活動	51
大高	1,526		
全建設現場	-		
飛島リサイクルセンター	2,272.50		11

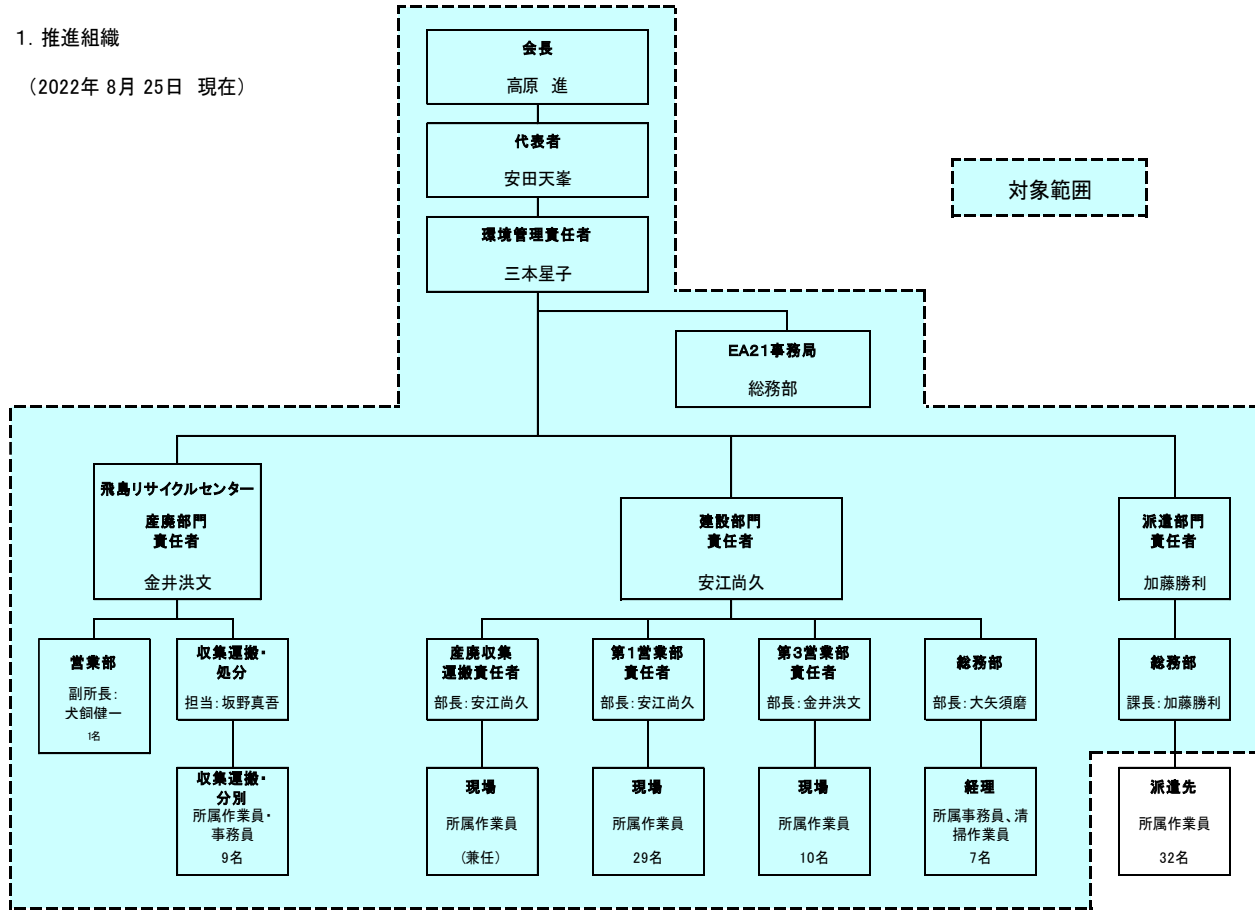
2) 環境レポート対象期間

2021年9月1日 ～ 2022年8月31日

3.エコアクション21組織図

1. 推進組織

(2022年 8月 25日 現在)



2. 役割と責任・権限

役 職	役割・責任・権限
会長	環境経営についての助言をする。 エコアクション21実施における人員・設備・費用について助言をする。 環境活動レポートの確認
代表者	環境経営の統括責任者 エコアクション21実施における人員・設備・費用を準備する。 環境管理責任者の任命 代表者による全体の評価、見直しを実施する。 環境活動レポートの承認
環境管理責任者	環境経営システム全体の構築、実施運用、維持管理に関する業務上権限を有する。 代表者への報告 環境マネジメントシステムの構築、実施、運用管理。 全社員への周知、教育、訓練 環境レポートの作成
EA21事務局	環境目標及び環境活動計画案の作成 環境関連法規等の取りまとめ及び遵守状況の確認 事故及び緊急事態の想定結果及び対応策の策定 環境負荷の自己チェック、取り組み自己チェックの実施 環境活動レポートの作成 内部監査実施及びとりまとめ
部署責任者	各部署における環境マネジメントの実施、各記録の実施(現場までの通勤車両、寮生活でのエネルギー消費低減活動) 発生した問題点のチェック及び是正・予防処置の実施 緊急事態の試行及び訓練の実施
全従業員	環境方針の確認、理解、把握 各人における環境マネジメントシステムの実施

4.環境経営方針

株式会社セイブ 社 訓



環境経営方針

株式会社セイブは、経営における環境への取組の重要性を強く認識し、当社の事業において環境負荷の少ない活動 並びに環境に配慮したサービスに取り組む事により、低炭素社会・循環型社会の形成に貢献し、当社の将来に向けた企業価値向上を目指します。

環境への取組みに当たっては、下記の重点分野に基づき全従業員参加により推進すると共に環境関連法規等を遵守し、環境経営の継続的改善を図ることを誓約します。

環境への取組重点分野

1. CO2排出量削減
 - ①電気・ガス使用量の削減に努めます
 - ②車輛等の燃料使用量削減に努めます
2. 水使用量削減
3. 廃棄物排出量削減
 - ①一般廃棄物の削減に努めます
 - ②建設工事等からの産業廃棄物の排出を抑制し、分別の徹底、適正処理を行います
 - ③資源の有効利用と再資源化を推進します
4. 環境コミュニケーション
 - ①環境負荷低減に関する社内教育を行います
 - ②社内外の保全活動を推進します

制定日： 2015年10月1日
改定日： 2016年12月22日
改定日： 2017年12月25日
改定日： 2020年10月5日
改定日： 2021年10月5日

株式会社セイブ
代表取締役 安田 天峯

5. 環境経営目標

◆環境経営目標

◆基準年度比0.5%ずつ削減を目標として、2023年度末までに2.0%削減する。

取組項目		部門		単位	基準年	2021年度	2022年度	2023年度
					2019.9.1～	2021.9.1～	2022.9.1～	2023.9.1～
					2020.8.31	2022.8.31	2023.8.31	2024.8.31
二酸化炭素排出量削減	合計			kg-CO ₂	388,720	384,833	382,889	380,946
	電力	電気	建設・収運 本社/大高	k Wh	210,639	208,533	207,479	206,426
			収運・処分 飛島RC		12,798	12,670	12,606	12,542
			全社		223,437	221,203	220,085	218,968
		計	kg-CO ₂	109,344	108,250	107,704	107,157	
	化石燃料	ガソリン	建設・収運 本社/大高	L	24,018	23,778	23,658	23,538
			収運・処分 飛島RC		1,844	1,826	1,816	1,807
			全社		25,862	25,604	25,474	25,345
		計	kg-CO ₂	60,043	59,443	59,143	58,842	
		軽油	建設・収運 本社/大高	L	46,907	46,438	46,204	45,969
			収運・処分 飛島RC		22,733	22,506	22,392	22,278
			全社		69,640	68,944	68,596	68,247
		計	kg-CO ₂	182,759	180,932	180,018	179,104	
		都市ガス	建設・収運 本社/大高	Nm ³	10,201	10,099	10,048	9,997
			収運・処分 飛島RC		0	0	0	0
			全社		10,201	10,099	10,048	9,997
		計	kg-CO ₂	21,508	21,293	21,185	21,078	
		LPガス	建設・収運 本社/大高	Kg	5,013	4,962	4,937	4,912
			収運・処分 飛島RC		6.00	5.94	5.91	5.88
			全社		5,019	4,968	4,943	4,918
		計	kg-CO ₂	15,066	14,915	14,840	14,764	
水使用量の削減		建設・収運 本社/大高	m ³	9,259	9,166	9,120	9,074	
		収運・処分 飛島RC		125.0	123.8	123.1	122.5	
		全社		9,384	9,290	9,243	9,196	
一般廃棄物排出量の削減		建設・収運 本社/大高	Kg	126,156	124,894	124,264	123,633	
		収運・処分 飛島RC		4,050	4,010	3,989	3,969	
		全社		130,206	128,904	128,253	127,602	
再資源化率の向上		全社	%	※基準年度比年間平均を1%ずつ向上を目標とする				
				51.80	52.84	53.35	53.87	
グリーン購入の推進		全社	%	80	80	80	80	
環境配慮及びサービスの改善		本社/大高	・能力向上					
		飛島RC	・最終処分率の削減					

※電力係数 0.486kg-CO₂/kWh（中部電力） / 0.484kg-CO₂/kWh（丸紅新電力）

※紙を含む事務用品などの消耗品については、エコマーク商品、再生利用品の購入に努める。

6. 環境経営計画

取組期間 2021年9月1日～2022年8月31日

目標課題		目標	具体的実施項目	責任者
二酸化炭素排出量削減	電気使用量の低減	基準値比1%削減	・空調温度調整（冷房28℃、暖房23℃）	大矢 三本 疋田
			・不必要照明の消灯	
			・冷暖房必要期間の短縮への取組	
			・クールビズ・ウォームビズの実施	
	ガソリン・軽油使用量の削減	基準値比1%削減	・エコドライブの徹底(急発進、空ブレーキの禁止)	安江 金井 坂野
			・運行ルートの事前確認	
			・不必要な荷物の積載禁止	
			・アイドリングストップの推進	
	ガス使用量の削減	基準値比1%削減	・寮風呂使用時間を制限する	大矢 三本 疋田
・台所コンロ利用の短縮				
・不必要な給湯器の利用を控える				
水使用量の削減		基準値比1%削減	・節水の呼びかけ（風呂利用時のシャワー節水）	加藤 三本 疋田
			・洗車時の節水徹底（出しっぱなし厳禁）	
			・蛇口の締め忘れ点検	
			・風呂利用時間を制限	
廃棄物排出量削減		事務所寮等	・資源ごみの分別リサイクル推進	加藤 三本
			・ペーパーレスの推進	
			・ミスコピーの削減	
		建設現場	・廃棄物種類の把握と適切な分別の徹底	安江 金井
			・余分な原材料を在庫として持たない	
処分場		・リサイクル率の向上	坂野	
収集運搬効率の向上			・効率的なルートで収集運搬	安江 金井 坂野
			・エコ運転、アイドリングストップ	
			・出発前にタイヤ空気圧をチェック	
グリーン購入推進			・再生紙などの使用推進	後藤
			・エコ商品の優先購入推進	
課題を解決しチャンスを活かす取組 段階的に推進			・働き方改革（ノー残業デイ）	大矢
			・事務作業のデジタル化	
			・社内コミュニケーションのIT化	

7. 環境経営目標の実績

		2021年度(2021年9月～2022年8月)		判定 ※5	
		項目	目標	実績	
全社	(本社・大高＋飛島RC)	売上(億円)	－	9.5	－
		二酸化炭素総排出量(kg-CO2)	384,833.0	348,027.6	○
		二酸化炭素総排出量(kg-CO2)/売上	－	36,634.5	－
		電気使用量 (kWh)	221,203.0	210,251	○
		ガソリン使用量 (L)	25,604.0	22,226.7	○
		軽油使用量 (L)	68,944.0	62,046.9	○
		都市ガス使用量 (m3)	10,099.0	8,060.0	○
		LPG使用量 (kg)	4,968.0	4,830.4	○
		水道使用量 (m3)	9,290.0	8,260	○
		一般廃棄物排出量 (kg)	119,048.0	108,744.0	○
		再資源化率の向上 (%)	51.81%	45.80%	×
		グリーン購入の推進 (%)	80%	82.99% (288点/342点)	○

本社・大高	(特定/一般建設業・収集運搬業)	売上(億円)	-	9.3	-
		二酸化炭素総排出量(kg-CO2)	316,949.5	295,330.8	○
		二酸化炭素総排出量(kg-CO2)/売上	-	31,858.8	-
		電気使用量(kWh)	209,586.0	196,810.0	○
		ガソリン使用量(L)	23,898.0	21,754.7	○
		軽油使用量(L)	46,673.0	44,879.9	○
		都市ガス使用量(m3)	10,150.0	8,060.0	○
		LPG使用量(kg)	4,988.0	4,824.9	○
		水道使用量(m3)	9,213.0	8,126.0	○
		一般廃棄物排出量(kg)	115,018.0	106,524.0	○
		再資源化率の向上(%)	51.81%	*全社集計	-
		グリーン購入の推進(%)	80%	*全社集計	-

飛島リサイクルセンター	(収集運搬業・処分業)	売上(億円)	-	0.24	-
		二酸化炭素総排出量(kg-CO2)	69,827.2	52,626.7	○
		二酸化炭素総排出量(kg-CO2)/売上	-	219,278.0	-
		電気使用量(kWh)	12,734.0	13,441.0	×
		ガソリン使用量(L)	1,835.0	472.0	○
		軽油使用量(L)	22,619.0	17,167.0	○
		都市ガス使用量(m3)	0.0	0.0	○
		LPG使用量(kg)	6.0	5.5	○
		水道使用量(m3)	124.4	134.0	×
		一般廃棄物排出量(kg)	4,030.0	2,220.0	○
		再資源化率の向上(%)	51.81%	*全社集計	-
		グリーン購入の推進(%)	80%	*全社集計	-

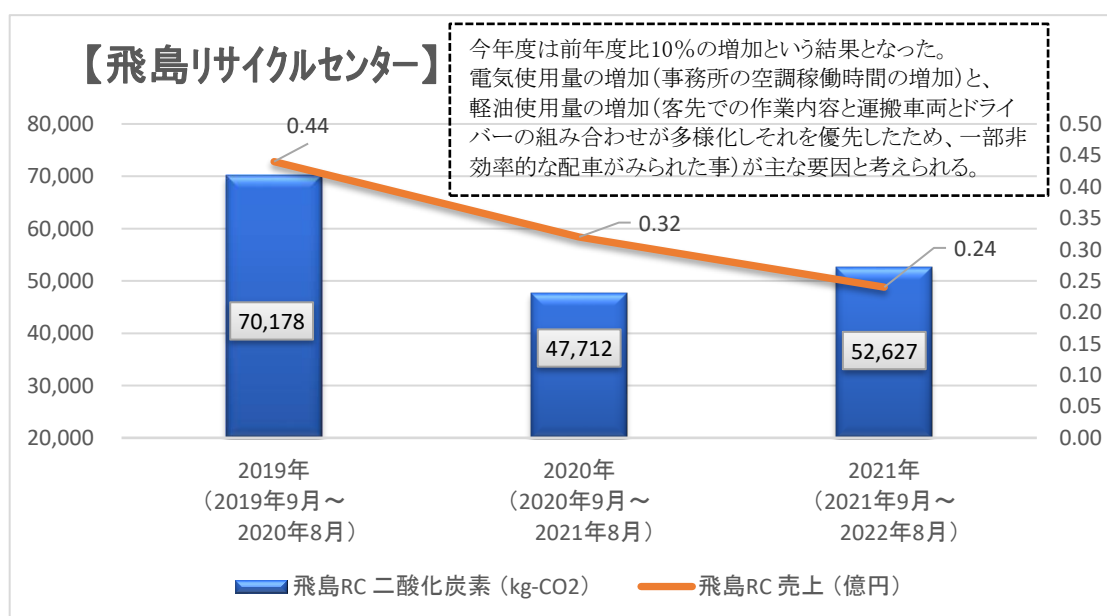
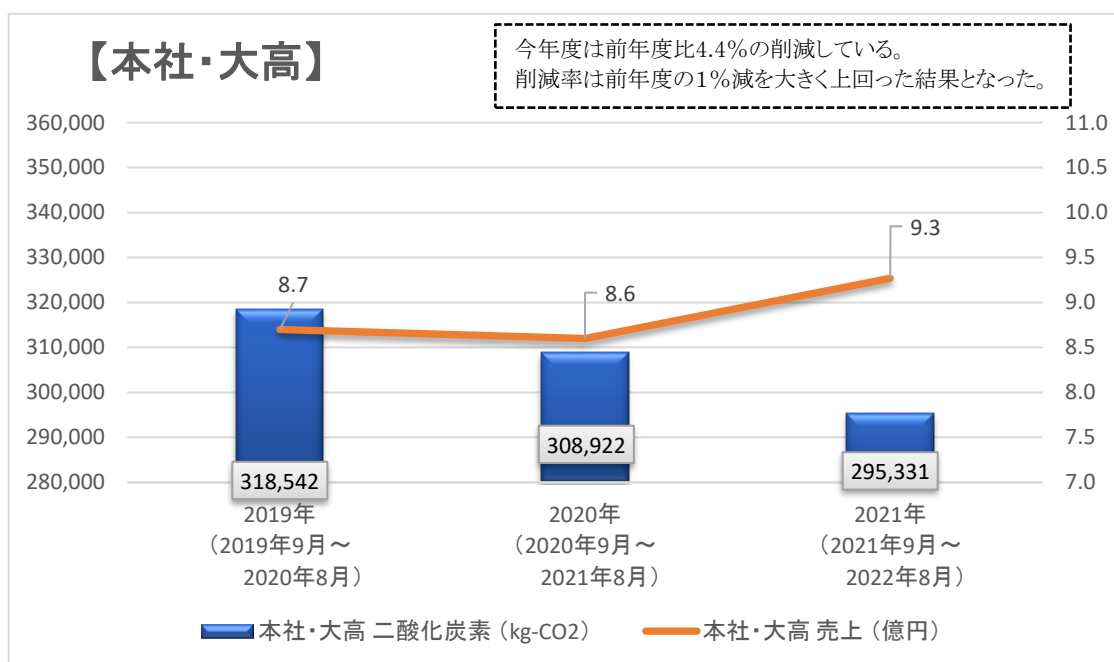
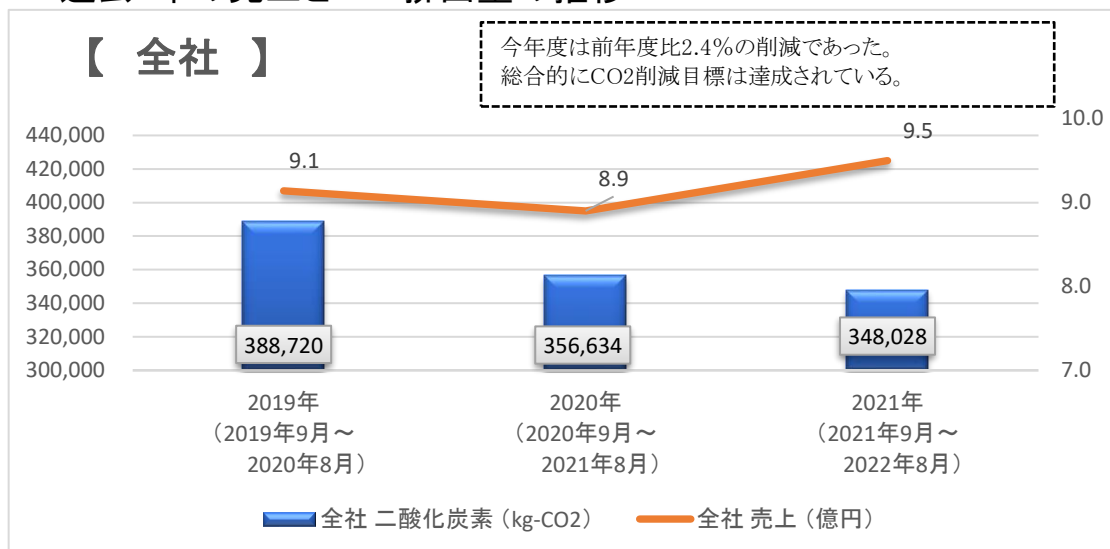
※1 化学物質(PRTR対象物)の使用はない

※2 電気の二酸化炭素換算係数は購入先により、中部電力は0.486、丸紅新電力0.484を使用

※3 LPGの体積(M3)から重量(kg)への換算係数は2.07kg/M3とした。

※4 実施結果に対する判定は目標達成○、未達×とする

～過去3年の売上とCO2排出量の推移～



8. 環境経営計画の取組結果と評価、次年度の取組内容

目標課題	活動	具体的な活動項目	担当 責任者	判定	次年度の取組み
二酸化炭素排出量削減	事務所・寮での電気使用量の低減	空調温度調整(冷房28℃、暖房23℃)	各営業所担当 (大矢、三本 足田)	△	継続実施する。 冷暖房機器の稼働時間を短縮を推進する。
		不必要照明の消灯		○	
		冷暖房必要期間の短縮への取り組み		○	
		クールビズ・ウォームビズの実施		○	
	全車両、エコドライブによる燃料消費量削減	エコドライブの徹底	各営業部長 センター長 (安江、金井 坂野)	△	継続実施する。 エコドライブ推進 (急発進・急ブレーキの禁止)と アイドリングストップを強化する。
		運行ルートの事前確認		○	
		不必要な荷物の積載禁止		○	
		アイドリングストップの推進		△	
		適切なルート選定による効率的な運転の促進		○	
		早めのシフトチェンジ		△	
		タイヤ空気圧のチェック		○	
		低燃費型機械の使用推奨		○	
	事務所・寮で、ガス使用量の低減、コンロの長時間使用を避ける	寮風呂使用時間を制限する	各営業所担当 (大矢、三本 足田)	×	継続実施する。 風呂使用時間の厳守を徹底する。
		コンロの長時間使用を避ける		○	
		不要な給湯器の利用を控える		○	
水使用量削減		節水の呼びかけ	各営業所担当 (加藤、三本 足田)	○	継続実施する。 洗車時の節水を徹底、風呂利用時のシャワーの節水を強化する。
		洗車時の節水徹底(出しっぱなし厳禁)		○	
		蛇口の閉め忘れ点検		○	
		風呂使用時間の制限		△	
廃棄物排出量削減	事務所、寮等	資源ごみの分別リサイクル推進	各営業所担当 (加藤、三本 足田)	○	ペーパーレスの推進、印刷ミス防止の強化と、ごみの分別・リサイクルを徹底する。
		ペーパーレスの推進		○	
		ミスコピーの削減		○	
	建設現場	廃棄物種類の把握と適切な分別の徹底	各営業部長 (安江、金井)	○	継続実施する。
		余分な原材料を在庫として持たない		○	
	処分場	リサイクル率の向上	センター長(坂野)	○	
収集運搬効率の向上		効率的なルートで収集運搬	各営業部長 センター長 (安江、金井 坂野)	○	継続実施する。
		エコ運転、アイドリングストップ		△	
		出発前にタイヤ空気圧チェック		○	
グリーン購入推進		コピー用紙、トイレトペーパーは再生紙を利用	後藤	○	継続実施する。
		エコ商品の優先購入推進		○	
課題を解決し、チャンスを活かす取り組み 段階的に推進		働き方改革(ノー残業デイ)	総務部長	○	継続実施する。
		事務作業のデジタル化		○	
		社内コミュニケーションのIT化		○	

* 化学物質の使用はありません(PRTR対象物質)

* 評価基準 ○:出来た △:改善の余地あり ×:出来なかった

～評価と次年度の取り組み内容～

二酸化炭素の実績値では目標を達成することができた。電気使用量やガス使用量など達成できていない項目もある。

電気使用量に関しては、休日出勤などで電気使用時間の増加はあったが、取り組み活動の内容は達成できていた。

燃料費削減では運行ルートの事前確認や不必要な荷物は載せないなどの活動は定着してきた。

エアコンの使用時間や風呂利用時のシャワー節水などは、一人一人の意識を高める啓蒙活動が必要だと実感した。

今後は、withコロナ、全体の活動もできる見込みなので周知会等開催をして、全員参加をめざし継続して活動していく。

次年度は、エコアクションの環境活動とSDGs宣言の取組みと併せて 今後も活動を継続する。

《環境経営計画の取組事例》

火災発生を想定した消防訓練。一人一人消火器の使用方法を再確認しました。



年に2回消防点検を実施



使用していない部屋は消灯を心がけ節電を徹底



エアコンの設定温度を決め節電を徹底



《環境経営計画の取組事例》

ゴミの分別を徹底しリサイクルを推進



SDGSを支援しています



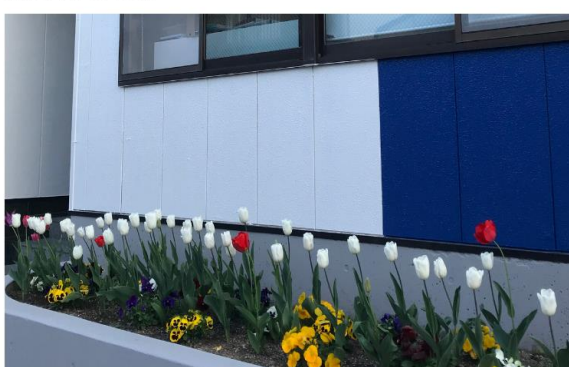
万場小学校に一輪車を寄付



毎年設置される熱中症対策の自動販売機



会社前の花壇で咲きました。

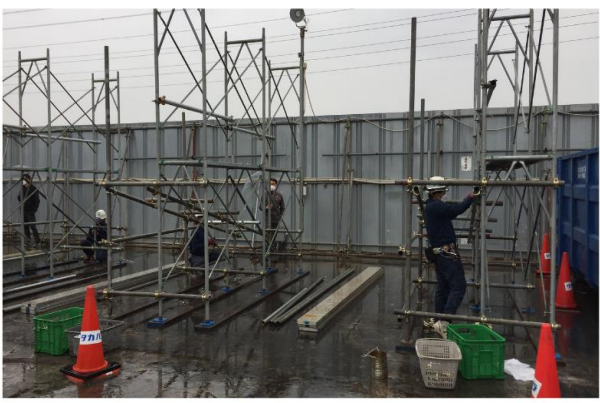
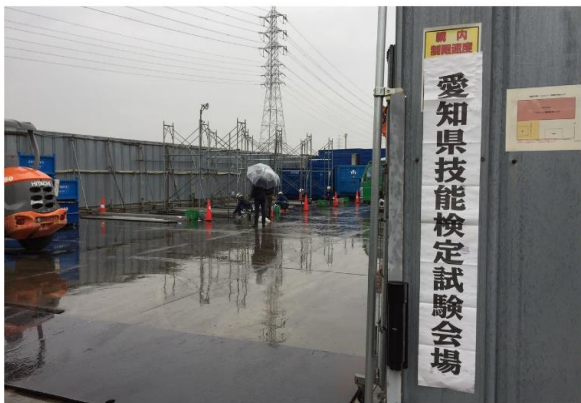


《環境経営計画の取組事例》

マニフェスト教育（飛島RC）



2022年度技能実習生足場組立技能検定試験実施



万場盆踊りに協賛しました。

第28回万場盆踊りに『3,000人』！



協賛頂いた事業所・個人の皆さま

(株)セイブ

お土産交換数からみた5町の出席

回	町名	世帯数	7/29(金)	7/30(土)
28	東町	235	55	51
	中町	300	41	45
	西町	410	86	71
	南町	220	56	40
	吉津	455	43	58
合	計	1,620	281	265

藤前干潟とその周辺でゴミを回収し、環境問題について考える取り組みに参加しました。



9. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の 結果並びに違反、訴訟等の有無

1) 環境関連法規の遵守状況の確認

関係法令概要	関連事項	遵守状況
廃棄物処理法	一般廃棄物	○
	産業廃棄物	○
建設リサイクル法	特定建設資材のリサイクル化等	○
大気汚染防止法	特定粉じん排出作業等	○
	石綿障害予防規則などの改正 (事前調査と調査記録保管)	○
騒音規制法	特定建設業等	○
振動規制法	特定建設業等	○
省エネ法	電気の平準化	○
消防法	危険物の取り扱いと消火器の点検等	○
フロン排出抑制法	定期点検の実施(※)	○
自動車NOX/PM法	排ガス規制適用車	○
オフロード法	基準に適合した車両の使用等	○
グリーン購入法	エコ商品の購入推進	○
愛知県 県民の環境保全に関する条例	事業者の義務	○
名古屋市 環境保全条例	事業者の責務	○
道路交通法 施行規則	酒気帯び有無の確認	○

対象期間内の環境関連法規等の遵守状況を確認した結果、遵守していることを確認した。

※家電・フロン(空調機)は取り扱いができないことを従業員に周知している。

産廃処分に関しては当事者ではないが持込客の搬入があった際にはフロン行程表の提示を求めている。

行程表がない場合は指導・対応を行っている。

2) 違反・訴訟の有無

過去3年間、各関係機関からの指摘もなく、違反及び訴訟の事実はありません。

10. 代表者による全体の評価と見直し

■ 定期見直し(事業年度終了後)

□ 臨時見直し

評価期間		2021年9月～2022年8月
評価実施日		2022年10月21日
見直しに必要な情報	環境管理責任者の報告及び改善への提案	
	取組状況の評価結果	①環境関連法規等の遵守状況 違反・訴訟はありませんでした。
		②問題点の是正及び予防措置の状況 1年を通してのCO2排出量は目標を達成することができた。 「再資源化率の向上」の項目が目標未達だった。 再資源化率については受入量、単価、マニフェストの内容等、処分先を見直したことで前年よりも再資源化率は向上した。
	環境経営目標・環境経営計画の達成状況	「再資源化率の向上」の項目が目標未達だった。
	周囲の変化の状況	①環境コミュニケーション(内部・外部) 外部については、1件苦情があり、再発防止策を検討しました。 内部については、ミーティングにおいて危険を認識し防止策を話し合って 周知を努めました。
		②環境関連法規等の動向他 石綿障害予防規則の改正があり、解体改修工事前の事前検査、報告が義務付けられた。
環境管理責任者から改善への提案、コメント	今年はボランティア清掃活動に参加することができた。 今後はコロナ対策をしながら参加人数を増やして活動を広めたい。 エコアクションの各項目の取組みを引続き継続していく。	
代表者による見直し	変更の必要性の有無・指示事項	
	環境方針	変更の必要性 □ 有 ■ 無
	環境経営目標・環境経営計画	変更の必要性 □ 有 ■ 無 同目標・計画にて取り組む
	その他	変更の必要性 □ 有 ■ 無 なし
	総括	環境活動への取組は概ね定着している。エコアクションの基本を鑑み「苦情の受付と対応」「法令の遵守状況チェック」「問題点の是正措置・予防措置」など企業経営に必須な重要項目を形骸化することなく継続的な改善を図る。SDGsの取組みも併せて社会、地域に根付いた活動を継続していく。